資料１－２

**平成２８年度　第１回泉州病床機能懇話会議事概要**

日時：平成２８年７月１４日（木）１４:００～１５：３０

　　　場所：大阪府和泉保健所　３階講堂

**■議題　「地域医療構想の策定について」**

**（資料に基づき、大阪府和泉保健所から説明）**

（１）平成28年度泉州病床機能懇話会の進め方について

（２）平成27年度病床機能報告における医療機能別病床数と必要病床数の比較について

（３）病床機能転換の計画状況について

（４）地域医療介護総合確保基金事業について

（５）泉州圏域における各医療機関の情報

**（主な質問・意見等）**

○必要病床数の算定は、入院受療率でかなり変わる。

　必要病床数と現状の病床数を曖昧な中で考えていくのは無理がある。

○入院受療率の変動に伴う必要病床数の見直しについて、国に働きかけて新しいデータを

　出していただきたい。

○病床機能報告の高度急性期の定義があいまいで、それぞれの病院が高度急性期をどう考える

　かによって数が変わってくる。

○必要病床数と基準病床数、それと実態を考えていく中で、どのようにランディングしていくかを慎重に議論していかなければならない。

○病床区分の統一された定義を出してもらわないと、話が前にすすまない。

○地域医療構想を生きたものにしようとすると、現実の病院のデータをかなり神経質に出して

　いかねばならない。

○病床機能報告について、泉州医療圏の機能配分の時に共通認識できるデータベースをつくるべきだと思う。

○病床機能は、本当にあるべき実態に近づくように、皆さんのコンセンサスをえて各病院が

　自主的に考える事が大事。

○病床機能の自己申告に対して他の病院がおかしいという事は言ってはいけない。

○泉州医療圏の必要病床数については、急性期が少し多いとあるが、泉州は大阪府下で一番早く救急の輪番が機能化したところ。各病院の急性期のベッドをもつ病院が輪番でうけて頑張ってきた。そういう背景も考えていただきたい。

○泉州圏域北から南まで広いので一緒に考えていくのは無理がある。

圏域を分けて考えるべきかどうかも含め、病床のあり方をどのように検討していったらいいかを議論していく必要がある。

○国から示されている数については、いろんな議論があると思うが2025年を目指して時間をかけながらやっていただきたい。

○いろいろ資料やデータを出してもらっているが、これは２０２５年にむけて病院が自主的に病床機能を考えて、あるべき形におちついていく上で参考にしていくものである事を確認したい。

**（主な大阪府の回答）**

○必要病床数については、府全体で時間をかけて皆のコンセンサスをえながら進めていく。

　この会議では、データと現場感覚の違いがあれば意見を出していただきたい。

○必要病床数と基準病床数との兼ね合いについては、まだ示されておらず、厚生労働省が検討しているところである。

○病床機能報告制度の機能別病床数は、病棟単位であり、病棟内の患者の割合を反映できるものではないので、必ずしも必要病床数と一致しないものではあるが、必要病床数を大体の目途として、各病院でどれだけ整備していくかを考えていただきたい。

○「泉州圏域を分けて考えては？」というご意見は以前からいただいているので、今回は医療情報データを保健所別にも集計して提示した。

　データの出し方で「こんな風に出してほしい」にというご意見があればいただきたい。

○病床機能報告マニュアルにおける病床機能区分の定義は、28年度に「特定入院料の算定病棟の具体的な扱い」が示されると言われている。

○２０２５年にむけての地域医療構想の実現のため、この懇話会で来年度以降も継続して開催していく。